

令和7年度「がんばる介護事業所表彰」受賞事業所一覧

【自立支援部門】

事業所名（法人名） 【サービス種別】	取組み内容	○…具体的な取組み内容
介護老人保健施設ささづ苑かがやき (社会福祉法人おおさわの福祉会) 【介護老人保健施設】	利用者の在宅で暮らしたいという思いを実現し、在宅復帰率を49%から61.5%に引き上げ、超強化型老健への移行を実現。 ○在宅復帰支援チームを令和7年4月に結成し、在宅生活が困難な課題の聞き取りからプランを作成し、集中的に全職員でリハビリを実施することで在宅復帰率を上昇させた。	
地域密着型特別養護老人ホームささづ苑かすが (社会福祉法人おおさわの福祉会) 【介護老人福祉施設】	特養から在宅復帰を実現。 ○要介護度3（86歳、女性）の利用者について、本人とご家族への聞き取り調査や週に1回以上の面会、意見交換を通して、本人の意向とご家族の意向（食事や排せつなど）のすり合わせを行いながら、本人の状況に適したケアを提供し、在宅復帰をかなえた。	
デイおおくぼの森 (社会福祉法人おおさわの福祉会) 【通所介護】	「できるかも」から「できた」に、食から始まる自立支援を実現。 ○利用者一人ひとりの身体状況や認知機能の程度、これまでの生活歴や性格、興味・関心の傾向を丁寧に把握したうえで、調理や盛り付け、配膳などその人に合った役割を提案する制度を実施した。さらに、日々のクラブ活動に利用者が選択して実施する個別プログラムを導入した。	
福祉プラザ七美認知症対応型共同生活介護 (社会福祉法人射水万葉会) 【認知症対応型共同生活介護】	筋力・嚥下機能の維持と、自己決定して食べる喜びを実現。 ○長い廊下を活用した「歩こう会」や、手作りの吹き戻し笛、プラスチックのコップとストローを使った肺活量トレーニングを実施した。また、個々の利用者が能力に合わせて食事の配膳・下膳自分で行うことで、バランス感覚の維持を目指す取組や、自分で食べるメニューを選ぶセレクトメニューを実施した。	
訪問看護ステーション十色 (合同会社人間讃歌) 【訪問看護】	自宅での災害の際の確認・訓練を実現。 ○契約時に災害に関する聞き取り調査を実施し、災害時のフローチャートを各利用者宅に設置した。さらにスタッフの共有ツールを使用して医療機器利用者を把握するとともに、年に一回の在宅での災害訓練や定期的な操作訓練を実施することで、実際に能登の地震を体験した際にスムーズに対応することができた。	

【雇用環境部門】

法人名	取組み内容	○…具体的な取組み内容
障害者支援施設わかくさの丘 (社会福祉法人セーナー苑) 【障害者支援施設】	ICTの活用により職員の負担軽減等を実現。	○眠りスキャンシステムを導入し、利用者の睡眠状態をリアルタイムで把握し、職員の巡回負担を軽減した。骨伝導による音声入力を導入し、記録の効率化を図った。ICTの導入にあたっては、導入前から使用方法について研修を実施し、苦手な職員には特別に研修を実施した。
孫の手デイサービス (デイライト株式会社) 【地域密着型通所介護】	外国人受け入れ～介護福祉士取得を実現。	○外国人スタッフを受け入れ、スタッフ同士や利用者との信頼関係構築に向けたレクリエーションやマナー指導、勉強サポート、帰省休暇取得などに取り組み、介護福祉士取得を実現した。
リハビリ特化型デイサービスRe-TAC (合同会社Re-TAC) 【通所介護】	業務効率改善でタイパ向上を実現。	○法定研修をランチミーティングとする、グーグルスプレッドシートを活用する、マクロや表計算の関数をつくるなどの取組により、事務作業に係る時間を節約し、質を落とさずに事務作業や法定研修を業務時間内に行うことができるようにした。
ささづ苑デイサービスセンター (社会福祉法人おおさわの福祉会) 【通所介護】	働きやすい職場環境づくりに取り組み、連続5日間のリフレッシュ休暇希望者は100%取得できる環境を実現。	○介護記録の音声入力化や送迎管理業務のAI化、連絡帳の簡素化、申し送りの音声化といった業務改善に取り組み、連続5日間のリフレッシュ休暇の希望者100%取得を実現した。
グループホームささづ苑つばさ (社会福祉法人おおさわの福祉会) 【認知症対応型共同生活介護】	記録時間短縮・申し送り廃止からの企画件数増加の職場環境改善を実現。	○音声入力アプリ「ハナスト」と介護記録システム「ケアカルテ」ほかインカム・スマホを導入することで、対面での申し送りを廃止し、音声で申し送りを入力する方式に変更した。
特別養護老人ホームだいご苑 (社会福祉法人戸出福祉会) 【介護老人福祉施設】	デジタル技術の活用による事務負担の軽減を通じて利用者に向き合う介護時間の確保を実現。	○AI搭載音声認識ICTレコーダーの徹底活用や、AIを活用した文書作成のテンプレート化、マニュアル作成、起案、チラシや掲示物作成に取り組み、グループウェアも導入した。AI活用指導者として選抜職員の育成、AI活用に係る研修の実施、採用時の使用方法の指導等に取り組んだ。
堀川南光風苑 (社会福祉法人光風会) 【地域密着型特別養護老人ホーム】	ICT機器（眠りスキャン）を活用し職員の心理的負担感の軽減を実現。	○令和6年4月全床に眠りスキャンを導入した。夜勤職員は1時間おきに巡回していたが、導入後は巡回する回数を減らした。さらに、利用者が覚醒しているときに合わせた排泄介助が可能になり、利用者の睡眠の質を高めることができた。職員の心理的負担感がどう変化するか職員向け調査を行い、改善が見られた。
介護老人保健施設みどり苑 (医療法人財団五省会) 【介護老人保健施設】	最新の見守りシステムや介護ソフトの導入により介護DXを推進し、職員も利用者も安心できる環境づくりを実現。	○2025年1月に「HitomeQケアサポートシステム」を入所棟の100床全てに導入し、介護ソフト「ケアカルテ」も導入した。DX推進委員会を中心に介護DXを推進し、SE担当者を配置して各部署へのきめ細かいサポートを行った。